

平成 22 年 3 月 15 日  
国土交通省海事局安全基準課

## IMO 第 14 回無線通信及び搜索救助小委員会(COMSAR14)の審議結果について

### 概要

- ・ GMDSS の見直しに向けて検討を開始。
- ・ e-navigation 戦略実施のため、情報通信システムのあり方について検討。次回引き続き検討予定。
- ・ 自動浮揚型衛星 EPIRB に AIS 機能を導入する等の性能要件を検討。次回引き続き検討予定。

3 月 8 日から 12 日まで、英国ロンドンの IMO 本部において、第 14 回無線通信及び搜索救助小委員会(COMSAR14)が開催されました。

我が国からは国土交通省、総務省、海上保安庁、在英国日本大使館、(独)海上技術安全研究所その他関係海事機関・団体からなる代表団が出席し、我が国意見の反映に努めました。今次会合における審議結果の概要は以下のとおりです。

### 1. GMDSS の見直しに向けての検討

第 86 回海上安全委員会(MSC86)において、約 20 年前の技術を前提に構築され、未だ大きな見直しが行われていない GMDSS について、システム全体の維持・向上を目的とする見直しに向けての検討を行うことが承認され、今次会合より審議が開始されました。

今次会合では、米国等から提出された GMDSS の見直しの必要性を含め、効率的に検討を実施するため、GMDSS を「機能要件」「規則」「技術の利用可能性」「設備の性能」の 4 つの観点に分ける提案、国際移動通信衛星機構 (IMSO) から提出された衛星通信の活用に関する提案等について審議を行いました。

審議では、見直しに関する手法の細かい議論ではなく、データ収集を含む GMDSS の現状分析、国際電気通信連合 (ITU) 等他の機関との調整が重要である等の意見が述べられました。

小委員会は、今次会合に提出された提案等を一つの文書に集約し、平成 22 年 9 月 14 日から 16 日に開催予定の第 6 回 IMO/ITU 共同専門家会合に同文書の検討を行うと共に、各国等に次回会合への意見や提案の提出を要請しました。

また次回会合において、コレスポネンスグループを設立し、詳細について検討を行う予定です。

## 2. e-navigation 戦略実施計画の策定

平成 20 年 11 月に開催された MSC 85 において、e-navigation の構築と実施のための戦略\*と同戦略の実実施計画が承認され、昨年の MSC 86 において、航行安全小委員会 (NAV) が中心となり、本小委員会と、訓練当直基準小委員会 (STW) とが連携して同戦略の実実施計画の開発作業を進めることとなりました。

今次会合においては、昨年 7 月開催の NAV55 で設置された e-navigation コレスポンデンスグループの進捗報告を基に、「システム・アーキテクチャー (データのやりとりの方法、設備機器、環境等、情報通信に係るすべての要素を含めたインフラ)」、「初期ギャップ分析 (ユーザーニーズと現状設備機器の能力に生じる差を小さくするための方法の分析)」及び「費用便益及びリスク解析」について審議を行いました。

「システム・アーキテクチャー」については、コレスポンデンスグループにおいて提案された既存の全世界無線航法システム (WWRNS: World-Wide Radio Navigation System) を e-navigation システムの通信の中心部分として認識する考えが適切であることに合意しました。また、実際の機器、ソフトウェア開発の選定に関するクライテリアを検討し、現状の機器、将来考えられる機器のリストの更新を行いました。

ギャップ解析、費用便益及びリスク分析については、コレスポンデンスグループが提案した総合安全評価 (FSA: Formal Safety Assessment) の方法論で行うことに合意しました。

今次会合の審議結果を基にコレスポンデンスグループで更なる検討を行い、本年 7 月に開催予定の NAV56 において、引き続き検討される予定です。

\* e-navigation 戦略: 2006 年 5 月に開催された MSC 81 において、英国、我が国を含む 7 カ国の共同提案により審議開始が合意されたもので、最新の電子技術の活用と既存の設備等との統合による総合的な航海支援システムの構築を目的とする構想です。

## 3. 自動浮揚型衛星 EPIRB の性能要件の見直し

MSC86 において、米国が自動浮揚型衛星非常用位置指示無線装置 (EPIRB) の性能要件として、現在定められている航空機から浮揚位置を探知するための機能である 121.5MHz のホーミング機能の代替として、EPIRB 離脱時の GPS 情報を自動的に他船等に送信する (AIS) 機能を許容するよう提案し、MSC は本小委員会において検討することを承認しました。

今次会合においては、EPIRB の性能要件 (総会決議 A.810 (19)) の見直しについて、上

記ホーミング機能に関する米国及び豪州からの提案を基に審議を行いました。

自動浮揚型衛星 **EPIRB** のホーミング機能について、我が国は、**AIS** 機能の有効性を認識するものの、現時点では捜索救助を行う航空機などに **AIS** 信号を受信する体制が整備されていないことを踏まえ、**EPIRB** の性能要件に **121.5MHz** ホーミング機能を残すべきと主張しました。

また多くの国や関係機関等は、**AIS** 機能は **121.5MHz** の代替としてではなく、追加のオプションとされるべきとの意見を述べましたが、結論には至らず、小委員会は更なる審議を行うため、各国等に次回会合への意見や提案の提出を要請しました。